

評価シート

No.

2

事業所管 文化市民局文化芸術都市推進室  
文化芸術企画課

1 事業名 芸術家の移住・居住等推進モデル事業

2 事業期間 令和5年4月 ～ 令和8年3月

**[3 事業概要]**

本事業では、若手芸術家等が京都に集い、住み、活動しやすい、アーティストにとって魅力的な環境づくりを推進することで、京都への定住・移住を促進し、芸術家の人口増を図る。

また、芸術家等の多さは都市の寛容性や開放性の指標（※）であり、開放的な都市には優秀でイノベティブな人材が集まり、経済成長力が高まるとされており、こうした状況の創出を目指す。（※人口10万人当たりの芸術家の人数＝ボヘミアン指数。都市の成長戦略では「リーディング・チャレンジ」として「就業者数に占める芸術家の割合を令和15年度までに2.0%にする」ことを目標値として定めています。（令和2年国勢調査では1.39%）

当該事業においては、異なる文化に触れることで、新しい芸術表現を生み出そうとする芸術家等のニーズに対応し、創作活動や交流等を目的とした短期的な滞在も含め、以下の取組を行う。

(1) 京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）での専任相談員による相談対応  
 (2) 不動産事業者等との連携による芸術家等の居住・制作などに適した物件の掘り起こし・情報収集  
 (3) ホームページでの情報発信  
 (4) 京都市内外の芸術家等へのプロモーション 等

**[4 本事業が紐づく令和6年度政策評価結果]**

政策名【 5 文化 】 評価【C】  
 施策名【504 文化芸術活動を継続・発展させていくためのしくみの構築】 評価【B】

**< 推進施策の内容 >**

4 文化芸術活動を継続・発展させていくためのしくみの構築

(1) 芸術家・文化関係者とのネットワークづくり

多様な価値をもつ文化を創造・発信している、京都の芸術家や文化関係者との連携の下、ウィズコロナ社会においても、文化芸術活動を継続・発展させ、京都の文化を未来につないでいくためのネットワークをつくる。

(3) 豊かな文化資源を生かした文化の継承・創造・発信の支援

京都のまち全体を文化の活動の場としてとらえ、京都へ全面的に移転する新・文化庁や、京都駅東部に移転する京都市立芸術大学をはじめとした大学、文化芸術関係団体等との連携の下、京都市の文化芸術拠点（ロームシアター京都、京都芸術センター、京都市京セラ美術館、京都コンサートホール、京都市動物園等）の機能を充実するとともに、さまざまな文化関係施設（博物館・美術館、劇場等）を生かして、京都の文化の継承・創造・発信を支援していく。

**[ 5 事業目標 ]****< 実施成果（アウトプット） >**

- ・ 指標：芸術家等からの相談件数

【数値目標：100件（考え方：相談員が受ける年間相談件数）】

**< 事業効果（アウトカム） >**

- ・ 指標：京都に居住・滞在する芸術家の増

【数値目標：10人（考え方：本事業を利用して京都に居住・滞在した芸術家の数）】

**[ 6 令和5年度及び令和6年度の取組実績 ]****（令和5年度）**

京都芸術センター内に設置している京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）に専任相談員1名を新たに配置し、令和5年6月27日から芸術家等の移住・居住に係る相談事業等（以下(1)～(4)）を開始

- (1) 京都市内への移住・居住を希望する芸術家等からの相談対応(相談件数100件)

うち、実際に京都市に移住した人数：3組（6名）

- (2) 不動産事業者等とのネットワーク構築数：31件

- (3) 情報発信ウェブサイト「たどり着いたら京都」のプレオープン（市内に移住した文化芸術関係者や受入側のコミュニティ等の紹介）（公開日：令和6年3月末）

- (4) 京都市外の芸術家等へのプロモーションとして「アート×京都移住」トークイベント＆移住相談会の開催(令和6年1月13日に東京都中央区にある「移住・交流情報ガーデン」で開催、参加者数：18名（うち、移住相談会参加者5名）)

**（令和6年度）** 引き続き(1)～(4)を実施

- (1) 京都市内への移住・居住を希望する芸術家等からの相談対応(相談件数71件)

うち、実際に京都市に移住した人数：2組（3名） ※R6.10末時点

- (2) 不動産事業者等とのネットワーク構築数：5件 ※R6.10末時点

- (3) 情報発信ウェブサイト「たどり着いたら京都」のグランドオープン（公開日：R6.7末）

芸術家や文化芸術関係者が京都に移住したきっかけや理由を紹介するインタビュー記事や、芸術家や文化芸術関係者がどのような軌跡で京都にたどり着いたのか、マップで紹介。（掲載中の文化芸術関係者：4名 ※R6.10末時点）

- (4) 京都市外の芸術家等へのプロモーションを、年度内に実施予定

**7 予算及び決算**

(千円)

令和5年度予算現額	令和5年度決算	令和6年度当初予算	R6予算-R5決算
<b>事業費</b> 8,400 【財源内訳】 特定財源 8,400 ( 基金 8,400 ) ( ) 一般財源 0 【内訳】 委託料 8,400	<b>事業費</b> 8,400 【財源内訳】 特定財源 8,400 ( 基金 8,400 ) ( ) 一般財源 0 【内訳】 委託料 8,400	<b>事業費</b> 8,400 【財源内訳】 特定財源 8,000 ( 基金 8,000 ) ( ) 一般財源 400 【内訳】 委託料 8,400	0  -400  400  <備考>

<b>8 R5 決算の不用理由 (10%以上)</b>	
---------------------------------	--

<b>9 R5 決算とR6 予算の 乖離理由 (±10%以上)</b>	
---	--

[10 役割分担評価]		
<b>公共性</b>	公益性	<input type="checkbox"/> より多くの市民に提供されるサービス (共同消費性) <input checked="" type="checkbox"/> 特定の個人または集団に提供されるサービス (個人消費性)
	必需性	<input type="checkbox"/> 日常生活に必要不可欠なサービス (必需) <input checked="" type="checkbox"/> 日常生活に必要不可欠でないサービス (選択)
<b>実施主体 の妥当性</b>	政策性	<input type="checkbox"/> 政策的意思決定を必要とするサービス (政策的) <input checked="" type="checkbox"/> 経常業務の度合いが高いサービス (経常的)
	行政専門性	<input type="checkbox"/> 行政上の専門知識を必要とするサービス (行政専門性) <input checked="" type="checkbox"/> 行政上の専門知識を必要としないサービス (一般専門性)

## [11 政策・施策及び事業目標を踏まえた取組実績に対する評価]

## (1) 全体の評価

① 本事業の相談窓口の運営や不動産事業者等とのネットワーク構築による芸術家に適した物件の紹介、京都で文化芸術活動を行うことの発信等に取り組むことで、芸術家が京都での文化芸術活動を継続・発展させることにつながり、京都の文化を未来につないでいくネットワークづくりに寄与していると考えている。

② また、本事業の京都芸術センターに設置している京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）での移住・居住に係る専任相談員の配置は、相談機能の拡充を図る取組であり、推進施策に掲げる施設機能の充実に寄与しており、さらに、移住のPRの際には、京都で文化芸術活動を行うことの魅力などを発信していることから、京都の文化の継承・創造・発信の支援にもつながると考えている。

## (2) 取組内容の評価・課題

① 京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）に移住居住に関する専任相談員を配置したことで、アーティストならではの相談（例：制作場所と居住場所を兼ねた物件、騒音が許容される場所など）に対応できる窓口となっている。KACCOは普段から文化芸術関係者の多種多様な相談に対応しており、相談窓口として一定認知されていることから、アーティストが相談しやすい環境になっている。

② 京都には芸術系大学が多いが、多くの学生が京都で卒業後に市外へ転出している現状がある。これまで、大学生にフォーカスしたPR等は行っていなかったが、令和7年度においては、京都市内の芸術系大学に通う大学生を対象にしたPR等を検討している。

③ アーティストからの相談に対して家主や不動産事業者から提供される物件情報が潤沢ではない。現在も、不動産事業者等とのネットワーク構築を進めてはいるが、令和7年度においては、さらに連携を強化し、様々な物件を紹介できるようにする必要がある。

## 12 令和7年度の方向性

現状のまま継続

## [13 参考（他都市の状況・事業効果、考慮すべき特殊事情など）]

他都市での類似事例なし。

アーティスト、実演家、演奏家、俳優、作曲家、制作者、デザイナー、技術スタッフ、スペース運営者、アートマネージャー等、京都市内在住、市内に活動拠点のある、又は市内に居住・活動拠点をお探しの文化芸術関係者のみなさまへ

公演や展示を企画したけど資金が足りない

補助金申請のアドバイスを受けたい

自分の活動でも受けられる支援はあるかな？

## 文化芸術活動の困りごとはじめの一歩の相談はぜひ KACCO へ！

公演の稽古場・リハーサル会場を探している

京都に移住を考えている

活動が大変で心が疲れてしまった

居住場所・制作場所を探している

京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）は、文化芸術に携わる方々からのさまざまなご相談に総合的に対応する窓口です。

「相談先がわからない」「こんなことで相談してもいいのだろうか」という方も、お気軽にご相談ください。

### 主な業務内容

活動支援情報等の発信 / 講座・イベントの開催 / 相談先の紹介 / 相談内容のポイントを整理するサポート / 士業（弁護士・税理士・心理士等）への専門相談のサポート（初回相談料無料 / 諸条件あり）

/ 京都市への移住相談



京都市文化芸術総合相談窓口  
THE KYOTO-CITY ARTS AND CULTURE COUNSELING OFFICE

開室時間：火～土 10:00～18:00 \*京都芸術センターの臨時休館日、祝日・年末年始は休室

住所：京都市中京区山伏山町546-2 京都芸術センター・情報コーナー内

TEL：075-252-2162 WEB：https://www.kyotoartsupport.com

ご相談はこちらから



HAPS

KACCO



芸術家の移住・居住等推進モデル事業

## 「アート×京都移住」トークイベント&移住相談会の開催

京都市では、今後も少子化傾向が続く見込みであることに加え、ライフステージの変化を契機とした市外への人口流出等により、少子化・人口問題への対応が最重要課題となっている中、京都の強みである文化芸術の魅力を発信し、本市への移住・定住を促す「芸術家の移住・居住等推進モデル事業」等を進めています。この度、京都ゆかりの芸術家をゲストに招き、首都圏在住の文化芸術関係者等を主な対象としたトークイベント及び移住相談会を開催します。

### 1 日時

令和6年1月13日(土)午後2時～

午後2時～2時5分 イベントの概要説明

午後2時5分～2時35分 トーク

「わたしが京都移住を決めたわけ」

出演：青木彬さん

午後2時35分～3時15分 クロストーク

「文化芸術のまち京都の面白いところ・困ったところ」

出演：和田ながらさん・筒井加寿子さん・渡邊裕史さん

午後3時15分～3時30分 京都市の文化芸術活動に関する支援制度等の紹介

※トークイベント終了後、芸術家のサポートを行う団体「HAPS」・「KACCO」と本市職員による個別相談会を開催します（※要事前申込）。

### 2 会場

移住・交流情報ガーデン

(〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目1-6 越前屋ビル 1F)



### 3 申込方法

以下 URL から詳細を確認の上、事前に申込をお願いします。残席に余裕がある場合、当日参加も可能ですが、個別相談会の枠には限りがございますので、御了承ください。

[https://www.kyotoartsupport.com/i\\_ju/i\\_ju\\_kyoju\\_event](https://www.kyotoartsupport.com/i_ju/i_ju_kyoju_event)



### 4 参加費

無料

### 5 主催等

主催：京都市、京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）

コーディネート：東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス（HAPS）

## <イベント内容とゲスト>

### トーク「わたしが京都移住を決めたわけ」

#### ○青木彬さん（インディペンデント・キュレーター）

1989 年生まれ。東京都出身。首都大学東京インダストリアルアートコース卒業。アートを「よりよく生きるための術」と捉え、アーティストや企業、自治体と協同して様々なアートプロジェクトを企画している。これまでの主な企画に、まちを学びの場に見立てる「ファンタジア!ファンタジア!—生き方がかたちになったまち—」ディレクター(2018 年～)など。



### クロストーク「文化芸術のまち京都の面白いところ・困ったところ」

#### ○和田ながらさん（NPO 法人京都舞台芸術協会（\*）理事長／したため主宰）

演出家。京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科卒業、同大学院修士課程修了。2011 年 2 月に自身のユニット「したため」での作品発表を開始。美術、音楽、建築など異なる領域のアーティストとも共同作業を行う。2018 年より、京都木屋町三条の多角的アートスペース・UrBANGUILD のブックイングスタッフ。



（撮影：守屋友樹）

#### ○筒井加寿子さん（NPO 法人京都舞台芸術協会（\*）副理事長／ルドルフ（\*）主宰）

演出家、劇作家。1999 年、劇団衛星入団と同時に演劇活動開始。2003 年退団後、フリーの俳優としての活動を経て 2008 年に「ルドルフ」を立ち上げ。演出・劇作を開始する。これまでに平家物語や宇治拾遺物語などを題材とした、京都に縁の深い作品をいくつか発表している。2020 年、ルドルフ『隕石の葉』で十三夜会奨励賞受賞。2023 年、ルドルフ『ヒロインの仕事』で第 1 回関西えんげき大賞優秀作品賞受賞。平成 21 年度京都市芸術文化特別奨励制度奨励者。



○渡邊裕史さん (KYOTO EXPERIMENT(京都国際舞台芸術祭実行委員会)(\*)事務局  
/ソノノチメンバー)

1988年、京都市生まれ。大学4年時に演劇と社会のつながりに興味を持ち、ワークショップデザインを学ぶ。2010年以降、主に学校現場を中心に、演劇を軸としたワークショップのファシリテーターやコーディネーターとして、アートと社会や教育をつなぐ活動を行う。2016年からソノノチ制作。2018年からKYOTO EXPERIMENT事務局。ほか、関西を中心に劇場や実演団体の公演制作業務を多数担当している。



※(\*)は「京都市移住・定住応援団」登録団体です。

(参考)

東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス (略称：HAPS)

若手芸術家等が京都のまちなかに居住し、活動し続けることができる環境を整え、彼らの創作の活力を、まちの活力につなげていくことを目指し、平成23年、HAPS実行委員会を設立、31年4月に事務局を法人化。若手芸術家に適したしつらえ・価格などの空き家等と芸術家をマッチングする物件マッチング、閉校施設等を活用した制作スタジオの提供、仕事情報の収集・紹介等により若手芸術家の社会的、経済的地位の向上につなげる取組を行っている。

※HAPSは「京都市移住・定住応援団」登録団体です。

(URL) <https://haps-kyoto.com/>



**HAPS**

京都市文化芸術総合相談窓口 (略称：KACCO)

芸術家をはじめとした文化芸術関係者の活動資金の確保や、契約・著作権等の専門知識など、文化芸術活動を行うために必要な支援策の情報発信と各種相談に対応する窓口。

文化芸術活動全般に係るアドバイス、各種補助金の紹介に加え、契約書・著作権等の法律相談、メンタルケア、税務・確定申告の相談に至るまで、専門家・関係機関と連携しながら幅広く相談に対応しており、京都芸術センター内に設置されている。

(URL) <https://www.kyotoartsupport.com/>



**KACCO**

京都市移住・定住応援団について

京都市の移住・定住促進に向けた取組に賛同し、応援いただける企業・団体等を「京都市移住・定住応援団」として募集している。

応援団では、若い世代が京都で働き・暮らし・子育てしたいと思い、住み続けていただける都市を目指して、各企業・団体等がお持ちのアイデアやノウハウをまちづくりにいかしながら、公民連携で京都市への移住・定住促進につながるサービスの提供や情報発信等を行っている。

(URL) <https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000312984.html>



(広報資料)

令和5年6月26日  
京都市文化市民局  
文化芸術都市推進室  
文化芸術企画課  
075-222-3119



## 芸術家等の京都への移住・居住推進のための相談事業等を開始します！

京都市では、京都芸術センター内に、文化芸術活動のために必要な支援策の情報発信と各種相談に対応する「京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）」（参考1）を開設しています。

この度、京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）に専任相談員を新たに配置し、関係機関との連携の下、芸術家等の移住・居住に係る相談事業等を開始しますので、お知らせします。

### 1 目的及び概要

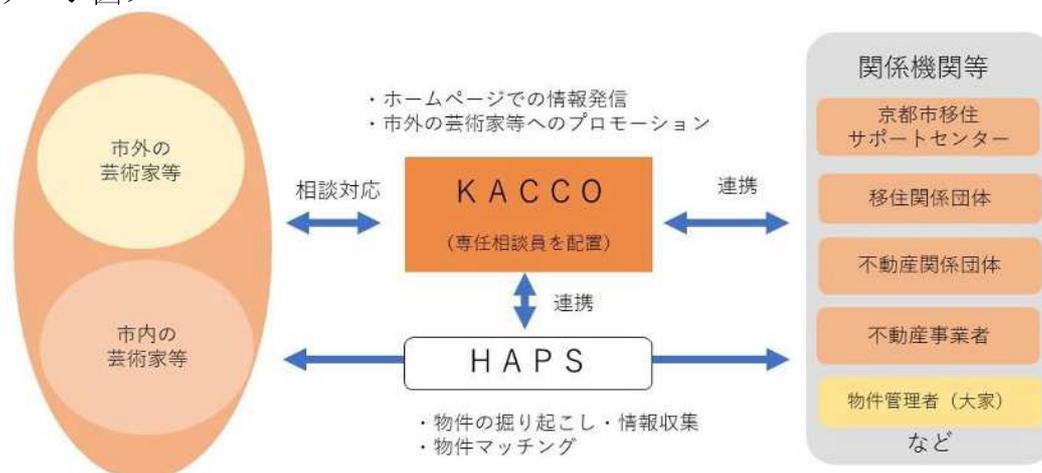
京都市では、少子化・人口減少問題への対応が市政の最重要課題になっており、令和5年度から、京都の強みである文化力を活かし「文化芸術による少子化・人口減少対策」※を推進しています。本事業の一環として、芸術家等が京都に集い、住み、活動しやすい魅力的な環境づくりのため、異なる文化に触れることで新たな表現を生み出そうとする芸術家等による移住・居住のニーズに対応する相談事業を開始します。

また、相談ニーズに的確に対応するため、関係機関との連携を強化し、芸術家等の居住・制作等に適した物件の掘り起こしを図り、一般社団法人HAPS（参考2）の実施する物件マッチングに繋げるとともに、移住等に関する情報発信やプロモーションも行います。

※ 芸術家等の多さは都市の寛容性や開放性の指標とされ、この指標が高い都市にはイノベティブな人材が集まり、経済成長力が高まるとされており、こうした状況の創出を目指すもの

### 2 実施内容

- 京都市内への移住・居住を希望する芸術家等からの相談対応
  - 不動産事業者等との連携による、芸術家等の居住・制作などに適した物件の掘り起こし・情報収集
  - ホームページでの情報発信（市内に移住した文化芸術関係者や受入側のコミュニティ等の紹介）
  - 京都市外の芸術家等へのプロモーション
- <イメージ図>



### 3 開始日

令和5年6月27日（火）午前10時～

（開館：火～土 午前10時～午後6時。祝祭日及び京都芸術センター休館日を除く。）

### 4 相談場所

京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）

（所在地）〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2

京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）内

### 5 相談方法

来所、電話、相談フォームにより相談を受け付けます。

（電話）075-252-2162

（相談フォーム）<https://forms.gle/YqPTVGBm88RGr5HbA>

#### <参考1：京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）について>

芸術家をはじめとした文化芸術関係者の活動資金の確保や、契約・著作権等の専門知識など、文化芸術活動を行うために必要な支援策の情報発信と各種相談に対応する窓口です。

文化芸術活動全般に係るアドバイス、各種補助金の紹介に加え、契約書・著作権等の法律相談、メンタルケア、税務・確定申告の相談に至るまで、専門家・関係機関と連携しながら幅広く相談に対応しており、京都芸術センター内に設置されています。

#### <参考2：一般社団法人 HAPS について>

若手芸術家等が京都のまちなかに居住し、活動し続けることができる環境を整え、彼らの創作の活力を、まちの活力につなげていくことを目指し、平成23年、HAPS 実行委員会を設立、31年4月に事務局を法人化しました。若手芸術家に適したしつらえ・価格などの空き家等と芸術家をマッチングする物件マッチング、閉校施設等を活用した制作スタジオの提供、仕事情報の収集・紹介等により若手芸術家の社会的、経済的地位の向上に繋げる取組を行っています。

（所在地）京都市東山区大和大路通五条上る山崎町339

（電話）075-525-7525

（Email）[info@haps-kyoto.com](mailto:info@haps-kyoto.com)

## 芸術家等の京都への移住・居住推進のための情報発信ウェブサイト 「たどり着いたら京都」をグランドオープン！

京都市では、芸術家等が京都に集い、住み、活動しやすい魅力的な環境づくりのため、京都市内への移住・居住を希望する芸術家等からの相談対応、不動産事業者等との連携による芸術家等の居住・制作などに適した物件の掘り起こし・情報収集等に取り組んでいます。

この度、令和6年3月末にプレオープンしていた芸術家等の京都への移住・居住推進のための情報発信ウェブサイト「たどり着いたら京都」をグランドオープンします。ウェブサイトでは、京都への移住や、拠点を持つことを検討されている芸術家や文化芸術関係者の方々への情報発信として、京都に移住した文化芸術関係者にインタビューを行い、移住したきっかけや軌跡等を紹介します。



ウェブサイトのトップページイメージ

### 1 公開日時

令和6年7月31日（水）午前10時

### 2 URL

<https://tadoritsuitara.kyoto.jp/>

### 3 コンテンツ

#### ○インタビュー記事

芸術家や文化芸術関係者が京都に移住したきっかけや理由を紹介します。

#### ○キーワード一覧

芸術家や文化芸術関係者が京都に移住したきっかけとなる「キーワード」を紹介します。

#### ○みんなの京都へのたどり着き方

芸術家や文化芸術関係者がどのような軌跡で京都にたどり着いたのか、マップで紹介합니다。



#### 4 インタビューさせていただいた方々 ※順次追加

##### 荒木悠（あらかき・ゆう）／アーティスト・映画監督

移住先を探していた中、京都での仕事の機会が増えてきていたことやご縁もあり、京都に移住を決めた。

2007年ワシントン大学サム・フォックス視覚芸術学部美術学科彫刻専攻卒業。2010年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修士課程修了。主な展覧会と映画祭に、「荒木悠 LONELY PLANETS」（十和田市現代美術館、青森、2023-4）、「Memory Palace in Ruins」（C-LAB、台北、2023）、「恵比寿映像祭 2023 コミッション・プロジェクト」（東京都写真美術館）等。

##### 金澤韻（かなざわ・こだま）／現代美術キュレーター

7年滞在した上海から、コロナ禍の影響もあり、帰国を決意。その頃、関西で大きな案件を抱えていたこともあり、パートナーにも縁がある京都に移住。

東京芸術大学大学院美術研究科、および英国王立芸術大学院大学（ロイヤル・カレッジ・オブ・アート：RCA）現代美術キュレーティングコース修了。熊本市現代美術館など公立美術館での12年の勤務を経て、2013年に独立。2017年4月から2020年3月まで十和田市現代美術館の学芸統括としても活動。CIMAMメンバー。コダマシーン（金澤韻＋増井辰一郎）ファウンダー、アーティストティックディレクター。

##### 倉田翠（くらた・みどり）／演出家・振付家・ダンサー

京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）映像・舞台芸術学科への入学をきっかけに京都に移住。

京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）映像・舞台芸術学科卒業。3歳よりクラシックバレエ、モダンバレエを始める。京都を拠点に、演出家・振付家・ダンサーとして活動。2016年より、倉田翠とテクニカルスタッフのみの団体、akakilike（アカキライク）の主宰を務め、アクターとスタッフが対等な立ち位置で作品に関わる事を目指し活動している。令和5年度京都市芸術新人賞。2024年4月より、まつもと市民芸術館 芸術監督（舞踊部門）。

#### 5 芸術家等の京都への移住・居住に関する相談

京都芸術センター内に設置している「京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）」※に、移住・居住の相談に対応する専任相談員を配置し、芸術家等の京都への移住・居住に係る相談事業等を行っています。

<京都市文化芸術総合相談窓口 KACCO>

〒604-8156 京都市中京区山伏山町 546-2 京都芸術センター・情報コーナー内

開室時間：火～土 10:00～18:00（日・月・祝休）\*京都芸術センターの臨時休館日は休業  
TEL：075-252-2162

WEB：<https://www.kyotoartsupport.com/iju>

相談フォーム：[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf4MSW8EGRNjGzxxEEC2DS6-VhcvZgYkrudzPXmI\\_waVUvX8g/viewform](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf4MSW8EGRNjGzxxEEC2DS6-VhcvZgYkrudzPXmI_waVUvX8g/viewform)

#### ※ 京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）について

芸術家をはじめとした文化芸術関係者の活動資金の確保や、契約・著作権等の専門知識など、文化芸術活動を行うために必要な支援策の情報発信と各種相談に対応する窓口です。